第8号
平成13年9月1日

生涯学習の窓

富山大学生涯学習教育研究センターニュース

大学開放をより幅広く

最近ようやく朝夕秋めいてまいりましたが、今年もまた暑い夏になりました。そして、大学開放の在り方にも「熱い」うねりが押し寄せて参りました。今回は、信州大学で「すべての正規授業を公開」という話題をご紹介いたします。

公開授業とは、富山大学の正規学生に対しておこなわれている授業の一部を一般市民の方にも聴講していただく制度です。これまでに富山大学で公開授業をご担当いただいた先生からも、「一般の方の学習態度は素晴らしい、正規学生への刺激にもなった」というご意見をお聞きしました。

信州大学では、「生涯学習の場として大学を地域に開放しよう」というコンセプトで、正規学生向けの授業を原則的にすべて市民一般に向けて開放することになった、というのです。しかも、規定の15コマ分すべてです！

富山大学でも、以前から「公開授業」というものが制度化されていましたが、「ある特定の条件を満たす授業だけ」、それも「コマ数の半分以内だけを」という内規的な措置が各地の国立大学と同様にとられてきました。

今回、信州大学がこの二つの制約を取り払ったことは、きわめて画期的なものと考えます。

まず第一に、何より、公開授業が実施しやすくなります。かねてから、「一つの授業を半分だけ別に完結させるのは難しい」ということが問題化していました。たしかに、学生に向けては15コマで完結するストーリーを提供し、一般市民の方には7コマで、というのを一つの授業で完璧にこなすことは明らかに無理がある話です。このことは、受講者自身の学習にとって少なからぬ制約ともなっていたかもしれません。これまで公開授業をご担当いただいた先生方には、その辺にかなりご面倒をおかけしてきたものと思われますが、それが解消可能だということが明らかになりました。

さらに第二に、「原則すべて公開」となれば、大学全体の幅広いカリキュラムを提供することが可能になります。

正規授業の全面的な公開を実現するためには、学内で大いに議論をする必要があります。センターでは今後ともいろいろな面から大学開放をはかっていきたいと考えていますので、信州大学のような正規授業の全面公開についても学内での検討を深めていきたいと思います。公開授業の全面実施が実現するならば、地域の学習ニーズにこたえながら、学内の雰囲気もいっそう活気を帯びるという、さわやかな学風が富山大学にうまれてくることが期待できると考えます。

平成13年度の公開講座・公開授業

今年度は、主に教育学部の神川康子先生、竹井史先生をはじめとする各部局の公開講座専門委員の先生方のご尽力のおかげで、驚くべき講座数を実現できました(何と前年度の２倍以上です！)。本当にどうもありがとうございました。また、今後とも一つよろしくお願いします。

【教養講座】

講　座　名	講　義　内　容	開 講 期 間	定員
初級英会話	簡単な英文法の復習をしながら、「第一歩」から英会話を楽しみます。	５月11日～11月９日	20名
入門フランス語	会話を中心としたフランス語を、基礎から学びます。	５月12日～７月14日	20名
「地域の美術館に親しむ子どもたち」をめざして	欧米、日本や地域の美術館の事例を紹介しながら、子ども達の美的感性の形成について考えます。	５月16日～７月４日	20名
現代人の眠りと健康	眠りと健康について、わかりやすく解説します。	５月21日～５月25日	30名
マックで遊ぼう	マックの日常手入れ法から、カラオケ作りなどマルチメディア的な利用法について学びます。	５月28日～７月２日	８名
パソコン教室(Ⅱ)：表計算ソフトウエアを実生活で活用しよう！	Microsoft Excelの有用な使い方を学び、家計簿、レポート、見積・請求書、成績表、確定申告等を作成します。	６月４日～６月８日	30名
国際語エスペラントを話そう！	国際語・エスペラントの入門からはじめて、意志疎通のための会話を学びます。	６月５日～７月24日	20名
市民生活と経済・経営	現在の日本経済の現状を身近な分野から考え、日本社会と経済のあり方を考えます。	６月７日～７月５日	30名
人間の発達と心理	「生涯にわたる発達」ということを心理学の立場から学びます。関心のある方、教育・福祉関係の方へ。	６月７日～７月19日	30名
日本古代の地方行政と文化	外国文学にはみられない日本の古典文学の特色及びこうした作品群を生み出す歴史的背景について学びます。	６月９日～６月23日	30名
山歩きの楽しみ（１回目）	実際に山登りを楽しみ、素晴らしい風景をながめながら、植物や地質について学んでいきます。	６月16日～６月17日	15名
パソコン教室(Ⅲ)：ホームページを楽しく作ろう！	画像や文書、表などを作成する基礎的技術を学び、実際にホームページづくりにチャレンジします。	６月18日～６月22日	30名
教師のための情報教育実践講座	情報教育の観点から「総合的な学習の時間」の授業設計、教育方法、評価のあり方等について学びます。	７月７日～８月29日	50名
パソコン教室(Ⅳ)プレゼンテーション	講演会や発表会などで効果的に資料を見せるための「プレゼンテーションソフト」 の使い方を学びます。	７月９日～７月13日	20名
考古学が富山のルーツを探る：越中学Ⅰ	考古学の方法について学ぶとともに、実際に県内の古墳の発掘を体験して歴史への接近を試みます。	７月11日～８月２日	15名
野生生物の絶滅と自然保護	現在、環境破壊等で多くの種類の野生生物が絶滅の危機に瀕しており、自然保護の問題を学びます。	７月28日～８月18日	40名
若者の危機をどうみるか	「17歳問題」等、若い世代の心理的、社会的な側面から若者の危機を解説します。	９月１日～10月20日	30名
つくって遊ぼう！：幼児の造形実践講座	幼児期にぜひ体験したい手作りおもちゃや造形的な遊びについて、ていねいに解説します。	９月５日～９月26日	40名
生涯学習入門	生涯学習を支援・指導していくための基礎的な理論や方法を学びます。	９月７日～９月28日	20名
パソコン教室(Ⅰ)Windows 入門	「パソコンを使ってみたい」という初心者を対象に、わかりやすく指導します。	９月９日～10月７日	20名
演劇の魅力のありか	利賀村の自然にふれながら、演劇の面白さについて学びます。海外の事例紹介、演劇鑑賞など。	９月15日～９月16日	40名
遊べ遊べ・大人たちせんせいたち	大人が遊び心をよみがえらせ、子どもの遊びを支援できるようになるための講座です。	９月15日～11月11日	40名
学校五日制時代の教育はどうなるか	平成14年度からの学校完全週５日制について解説し、これからの教育の在り方を考えます。	９月17日～９月28日	30名
21世紀自然科学と折紙への旅	「幾何折り紙」や「オリガミクス」を通して、折り紙の魅力を堪能していただきます。	９月29日～９月30日	50名
身近な生活をデザインする	あなた自身が生活デザイナーとして、身近な生活や環境をみなおし、どうデザインするかを考えていきます。	10月１日～10月５日	30名
山歩きの楽しみ（２回目）	実際に山登りを楽しみ、素晴らしい風景をながめながら、植物や地質について学んでいきます。	10月13日～10月14日	15名
初級フランス語	日常生活や旅行に役立つ簡単なフランス語を学びます。	10月13日～12月22日	20名

講　座　名	講　義　内　容	開 講 期 間	定員
シニアから始めるインターネット講座（１回目）	「インターネットをはじめてみたい」と思っているシニアの皆様を対象に、やさしく導入していきます。	10月22日～10月26日	30名
元気の出る子育てアドバイス講座	ともすれば子育てに迷い、自身を喪失しがちな現代。前向きに子育てをしていくためのアドバイスをします。	10月27日～12月15日	30名
シニアから始めるオフィス2000	シニアの方を対象に、マイクロソフト社「オフィス2000」の使い方を指導します。	11月５日～11月９日	20名
究極の干し柿を作ろう	全国有数の干し柿産地である福光町にて、干し柿づくりの名人から「秘訣」を学びます。	11月８日～11月９日	20名
シニアから始めるインターネット講座（２回目）	「インターネットをはじめてみたい」と思っているシニアの皆様を対象に、やさしく導入していきます。	11月26日～11月30日	30名

【健康・スポーツ講座】

講　座　名	講　義　内　容	開 講 期 間	定員
肩こり・腰痛などを通して自分のからだと対話する	ストレスに満ちた現代社会を快適に生きるため、自分の体と上手に付き合っていけるよう、体との対話ということを、肩こり・腰痛といった身体的不都合を手がかりとして体験的に学ぶ。	６月９日～７月７日	20名
ゴルフ（初級者）コース	初級者を対象にゴルフを楽しくプレーするための基本を中心に学び、「生涯ゴルフ」の第一歩を踏み出します。	８月１日～８月９日	20名
ジョギング・ランニングコース	ウォーキング（競歩）を含め、ジョギング・ランニングを、楽しく、しかも速く走る理論と技術を学びます。	８月20日～９月８日	20名
親子スキー教室	単なるスキー技術の指導だけでなく、「親子で楽しく」学ぶところがこの講座のポイントです。	１月26日～１月27日	20組

【体験講座】※中学生・高校生対象、受講料無料

講　座　名	講　義　内　容	開 講 期 間	定員
LEGO World in Toyama：インターネットとロボットで知るネットワーク社会（中・高生）	21世紀はＩＴの時代！　LEGO遊びやロボット作りをしながら、ネットワークのしくみを楽しく学びます。	７月21日～７月22日	20名
21世紀のものづくりと科学（中学生）	21世紀の科学技術の動向を、ものづくりの技術、そしてそれを支える新しい科学を通してやさしく学びます。	８月２日～８月３日	40名

【公開授業】※正規学生対象の授業を公開するものです。

講　座　名	講　義　内　容	開 講 期 間	定員
こころの科学	私たちは、自分自身の心についてどこまで知っているのか？　知覚や記憶、個性等、心のしくみにせまります。	６月７日～７月12日	10名
ボランティア概論	ボランティアの「自発性」ということを追求し、その意義を考えていきます。	８月６日～８月７日	10名
地域と人間	現代社会において、どのように「地域」と向き合い、関わっていくか、ということについて考えます。	10月25日～１月24日	10名

＜親子フェスティバル＞の誕生：

教育学部・竹井史先生におたずねしました



さて、今や富山大学の看板的イベントの一つとなりました「親子フェスティバル」。その企画・実施面でのすぐれた指導ぶりを発揮されている竹井先生にお話をうかがいました。

富山大学の親子フェスティバルは、今年度で３回目を迎え、すっかり「富大のイベント」として定着した観があります。今からおよそ３年ほど前になるかと思いますが、親子フェスティバルの開催を企画するまでのいきさつについておたずねします。

子どもフェスティバルの時代から数えますと６回目を迎えるのですが、ある教育学部の学生が、もっと子どもたちと接する機会がほしいというところから、地域の子どもたちを定期的に地域の子どもたちを大学に迎え、遊びやもの作りの企画を開催したのが発端です。一度開催すれば、それを面白く感じる子どもたちや意欲のあ

る主体的な学生が集まり、気がつけば、その総決算として子どもフェスティバルを開催するようになっていました。その活動が生涯学習教育研究センターや教育学部に認められ、親子フェスティバルとして大学主催としてさせていただくことになりました。

親子フェスティバルは、「親子で」ということがポイントになっているかと思われます。竹井先生は、出張公開講座でもたびたび親子でおこなう制作活動を指導していただいていますが、その辺の課題意識についておたずねします。



親子と言っても、それぞれがお互いを十分に理解しているわけではないと思います。お互いの価値観、生きてきた時代状況も異なると同時に、親と子は生活の必然として親は親としての子は子としての役割を強いられ、その中で親子はお互いを半ば固定的に見ていることが多いと思います。そのプロセスの中で、我が子を好きになれない親、親を信用できない子どもも生まれるのだと思います。この状況の中で大切なことは、それぞれの固定化された概念をいかに崩し、新たな視点を持つかということなのですが、その際に親子の制作活動はきわめて大きな意味を持つと思います。

たとえば、親子の間伐材工作を例にあげますと、最初は間伐材を切る作業を端から見ていた親も我が子の苦戦ぶりに見るに見かね参加せざるを得なくなるわけです。すると、そこに必然的に親子の共同作業が生まれる。この作業の中では、親や子の日常の役割は意味を持たず、お互いが一人の人間同士として苦労を共に分かちながら協力しあうわけです。もちろん、その中には、木を切る時のいい香り、何を作ろうかという会話などが、共感的に行われます。そのプロセスの中でお互いがお互いの新たな面と出会っていきます。つまり、親子での制作体験は親子の新たな出会いを組織するという点において、現代においてとても重要な教育プログラムだと考えています。

親子フェスティバルは、全国放送でも取り上げられるなど、きわめて画期的な取り組みであると理解しております。これまでで企画に苦心したところ、あるいは今後の展望、などについておうかがいいたします。

この親子フェスティバルは、なによりも、学生主体のイベントであることに意義を感じています。そういった意味で、私自身が出しゃばらず、それでいて地域社会に向けての大学のイベントとしてのレベルを維持することがとても重要でした。しかし、そんな私の不安をよそに学生は、自分たちの考えをもとにそれぞれが主体的に行動し、過去のどれも大成功と呼べるものとなりました。

企画については、もの作り、巨大迷路などの人気のある定番プログラムと黒田講堂で行う特別企画の２つに分けています。特に、特別企画については時代状況を考慮に入れ、常にアップトウデイトな話題性のあるものを意識しています。企画に苦心するところはこれらの毎回の企画をどのようなものにするかということでしょうか。そして、これは切り離せないことなのですが、親子フェスは毎回、学長裁量等の変動的な予算によって開催されていますので、その予算が決定してからでないと、どこまでのことができるかどうか決定できないもどかしさがあります。また、場合によっては企画そのものが開催できない場合が起こったり、担当教員や学生の出資によって初めて成立するなどの不安定な要素には常に頭と心を痛めています。

これまでの代表的な企画としましては、ダンボールを使用した巨大迷路や、幼児対象のちびっこ迷路、親子で楽しめる間伐材等を利用したものづくり教室などがあります。また特別企画としまして、盲児の粘土像展や山田かまち展など、地域の皆さんに何か感じ取ってもらおうと企画したものも用意してきました。今年も、昨年まで以上に素晴らしい企画を用意し、あっと驚くようなイベントにしたいと私も学生たちも今から意気込んでいます。

最後に、富山大学の大学開放について、ご意見などありましたら、お願いします。

今後とも、地域の皆様を大事にすることはもちろん、県の内外にひろくこのイベントを知ってもらい、親子フェスティバルが富山大学の地域開放、社会的貢献の一助そして主体的な大学生の教育の場になればこんなにもすばらしいことはありません。今後とも大学関係の皆様のご理解ご協力を頂きたく思います。

―― お話ありがとうございました。

発行：富山大学生涯学習教育研究センター／〒930-8555富山市五福3190／TEL076-445-6956／FAX076-445-6960